STAR JEWELRY

RADIO STAR

- 正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- お読みになった後は、いつでも見られるように必ず保管してください。

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は、絵表示の一例です。）

⚠ このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

商品の特長

ソーラーパワーウオッチ

光を当てることで充電して時計を動かします。光エネルギーを電気に変換する光発電機能を搭載し、定期的な電池交換が必要ありません。一度充電が完了すると、光が当たらなくても約 7 ケ月間時刻を刻み続けます。

電波受信による時刻・日合わせ機能

標準時刻情報を自動的に受信して、時刻と日を合わせます。標準時刻情報は、福島と九州の電波送信所から送信され、受信環境の良い局を選択して受信します。時計からは電波を発信しませんので、人体や医療機器への影響はありません。

パワーセーブ機能

光が当たらない場所に連続 7 日以上時計を保管した場合、午前 00 時 00 分 00 秒になった時点で自動的に針の運針が止まり内蔵電池の消耗を抑えます。
（パワーセーブ作動中も精度範囲内で時刻を刻んでいます。）
・時計に光を当てると、パワーセーブが解除され現在の時刻を表示します。
・パワーセーブ解除後は、強制受信を行ってからご使用ください。

衝撃検知機能

時計が衝撃を受けたときに秒針と分針のずれを防ぎます。

JIS1 種耐磁性能

日常生活で磁界を発生する機器に 5cm まで近づけても、時計の機能を維持します。

目　次

1. ご使用になる前に 6
2. 充電について 9
3. 電波受信について 12
　A. 定時受信 14
　B. 強制受信 15
　C. 復活自動受信 16
　D. 受信結果の確認方法 17
　E. 受信可能地域の目安 18
4. 手動による時刻・日の合わせ方 22
5. 時差の確認と修正方法 26
6. 基準位置について 28
7. 光発電機能について 30
8. ソーラーパワーウオッチ充電時間の目安 32
9. 充電警告機能 34
10. 過充電防止機能 35
11. パワーセーブ機能 35
12. 故障かな？と思ったら 36
13. オールリセット 38
14. ソーラーパワーウオッチ取り扱い上の注意 40
15. お取り扱いにあたって 42
16. 定期点検（有償）について 53
17. 製品仕様 54

1. ご使用になる前に

時計をご使用になる前に、必ず次のことを行ってください。

●秒針が 1 秒ごとに動いているか確認してください。
秒針が 2 秒ごとに動いているときは、充電が必要です。

●この時計は、文字板に光を当てて充電します。
時計を快適にお使いいただくために、時計に光をこまめに当てて充電してください。詳しくは充電についての項目をご覧ください。

〈バンド調整について〉

お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります（製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く）。バンドの調整は、お買い上げ店にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

〈保護シールについて〉

時計のガラスや金属部分（裏ふた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

〈特殊な構造のりゅうずやボタンの使いかた〉

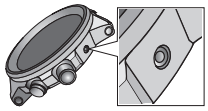
モデルによっては、誤操作を防ぐため、次のような構造のりゅうずやボタンの場合があります。

ねじロックりゅうず

時計を操作するときは、ロックを解除してください。

	ロックを解除する	再びロックする
ねじロックりゅうず	りゅうずが飛び出すまで、左に回す	りゅうずを押し込みながら右に回し、しっかり締める

隠しボタン



ボタンを押すときは、つまようじのような先の細いもので押してください。

・金属製のもので押すとボタンを傷つける恐れがありますので注意してください。

2. 充電について

この時計は、文字板の下にあるソーラーセルによって発電された電気エネルギーを、内蔵の二次電池に蓄えることができます。充電は、文字板に直射日光や蛍光灯などの光を当てることにより行われます。

時計を太陽光の当たる窓際などの明るい場所に置き、次のように充電すると、快適にご使用いただけます。

・月に一度は直射日光に当てて、5 ～ 6 時間充電してください。

・光の当たらない場所での長期保管を避けてください。

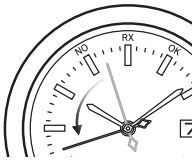
【注意】

・高温下（約 60℃以上）での充電はおやめください。

・衣服などで時計が隠れて光に当たらないと、十分に充電できないのでご注意ください。

〈充電残量を確認する〉

秒針の動きで、充電のようすをお知らせします。



(1) りゅうずを通常位置にします。

(2) (A) ボタンを押します。

ボタンを押した直後に、秒針が反時計回りに 15 秒戻る動きをしたときは、充電が必要です。

・秒針が反時計回りに動かなかった場合は、十分充電がされています。

※この操作は、受信結果確認と同じ操作になります。

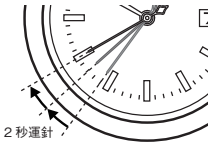
※秒針は、「OK」または「NO」を指しますが、これは受信結果であり、充電の様子とは関係ありません。

(3) (A) ボタンを押して、確認を終了します。

・ボタンを押さなくても、約 10 秒すると現在の時刻が表示されます。

〈充電警告機能〉

充電不足になると、秒針が 1 秒運針から 2 秒運針（2 秒毎に 1 回 2 目盛りずつ進む動作）に切り替わります。2 秒運針を始めてから約 5 日以上経過すると、充電不足で時計は停止します。充電不足にならないように、常に充電を心がけてください。



●2秒運針しているときは定時受信、強制受信および手動での時刻修正はできません。

「電波受信」「電波受信結果の確認」「時差の修正」「基準位置確認と修正」の最中に充電不足が発生すると、自動的に操作を中断し、操作前時刻に戻り、2 秒運針をはじめます。

3. 電波受信について

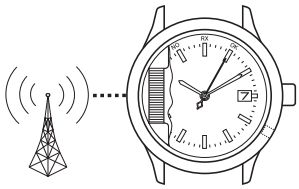
電波受信には定時受信、強制受信、復活自動受信の 3 つがあります。

電波を正しく受信すると自動的に時刻が修正されます。

受信が完了すると、各針は受信した時刻へ正転または、逆転で移動します。

〈受信の方法〉

標準電波を受信するときは時計を腕から外し、りゅうずを通常位置にした状態でお住まいの地域から近い方の送信所に、時計の左側面（9 時側）を向けて、窓際に置いてください。



・受信が完了するまで、時計を動かさないでください。

・電波を正しく受信しても、受信環境や時計内部処理により、時刻表示にわずかなずれを生じることがあります。

・標準電波が受信できない場合でも、時計は月差± 15 秒以内の精度で動き続けます。

・受信が完了するまでに、3 分～ 15 分程かかります。

・秒針が 2 秒毎に 1 回動いているとき（充電警告中）は、電波の受信は行われません。先に、充電を行ってください。

A. 定時受信

●毎日午前 2 時または、4 時に自動的に受信を始めます。

※定時受信のときは（A）ボタンの操作は必要ありません。

(1) 受信する際は時計を腕から外して、9 時位置を電波送電所方向へ向け、窓際等の電波を受信しやすい安定した場所に置いて受信してください。

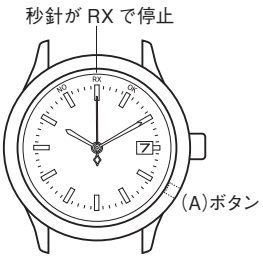
(2) 秒針が RX（12 時位置）に移動し受信を始めます。

受信中に秒針が回転し、受信開始時からの時間差を自動的に修正しますが、受信完了ではありませんので、通常運針になるまで時計を動かさないでください。

(3) 受信が完了すると、秒針が RX から通常運針になります。

「受信結果の確認方法」にて受信結果を確認ください。

B. 強制受信



必要なときにいつでも受信を行えます。受信環境が変わり、定時受信ができなかった場合などに行ってください。

(1) りゅうずを通常位置にします。

(2) (A) ボタンを 2 秒以上押します。

秒針が「RX」を指したら、(A) ボタンを離してください。受信が始まります。

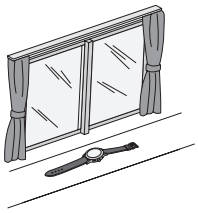
・受信中 (A) ボタンを押し続けると、受信が中止されます。

・受信を中止すると針が高速で回り、受信を始める前の時刻に、受信にかかった時間を加えた時刻に戻ります。

※受信を中断したり、受信に失敗したときは、時刻・日は修正されません。

C. 復活自動受信

充電不足で時計が止まった後、十分に充電されると、1度だけ自動的に受信を行います。



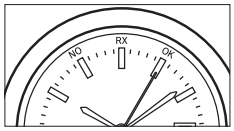
・復活自動受信に失敗した場合は、充電不足で停止したときの時刻に戻り動き始めます。この場合は1秒運針していますが時刻が合っていないため、強制受信または、手動で時刻・日を合わせてからご使用ください。
・復活自動受信中はすべての操作ができません。

D. 受信結果の確認方法

前回の受信結果を確認することができます。

(1) りゅうずを通常位置にします。
(2) (A) ボタンを押します。
　秒針が、文字板上の受信結果表示位置を指し示します。

OK	受信成功
NO	受信失敗
RX	受信中



・受信結果を表示する前に、電池の充電の状況を秒針の動きでお知らせします。(「充電残量を確認する」をご覧ください。)
(3) (A) ボタンを押して、確認を終了します。
　現在の時刻が表示されます。
・ボタンを押さなくても、約10秒すると現在の時刻が表示されます。

E. 受信可能地域の目安

この時計は標準電波の受信局自動選択機能付きです。受信可能地域の目安は次の通りです。
ただし、時間帯や季節、天候などにより、電波状況が変化し受信可能地域が変化する場合があります。
受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

〈電波送信所〉
・おおたかどや山標準電波送信所（福島局）
・はがね山標準電波送信所（九州局）

電波時計で利用している標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。
標準電波が受信できない場合でも、時計は月差±15秒以内の精度で動き続けます。

日本に2カ所ある標準電波送信所から送信される標準電波は、10万年に1秒の誤差といわれるセシウム原子時計をもとに「独立行政法人情報通信研究機構」により管理運営が行われています。

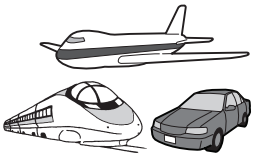
「受信に要する時間」
受信にかかる時間は、約3～15分です。

「受信が困難な場所について」
電波ノイズが発生しやすい場所や、電波の届きにくい環境条件下では
電波を正確に受信できないことがあります。

★極端に高温や低温の場所

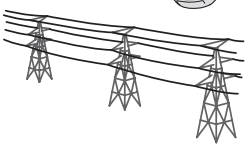
★鉄筋コンクリート建物の中
　高層ビルや山などの谷間、地下

★車、電車、飛行機の中

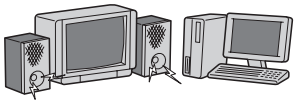


★通信中の
　携帯電話の近く

★高圧線（電線）、電車の架線、
　飛行場（通信施設）の近く

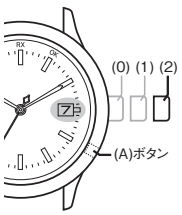


★テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の電化製品やOA機器の近く



4. 手動による時刻・日の合わせ方

時刻と日（年・月・日）を、手動で合わせます。
(1) りゅうずを2段引き位置にします。
　秒針が30秒の位置に移動します。
(2) (A) ボタンを押します。
　秒針が0秒の位置に移動し、分を合わせる準備ができました。
(3) りゅうずを回して分を合わせます。
　・1分の修正ごとに、秒針が1回転します。
　・りゅうずを素早く連続回転させると、針が連続で動きます。
　　針の動きを止めるには、りゅうずを左右どちらかに回します。
(4) (A) ボタンを押します。
　時針がわずかに動き、時と日を合わせる準備ができました。

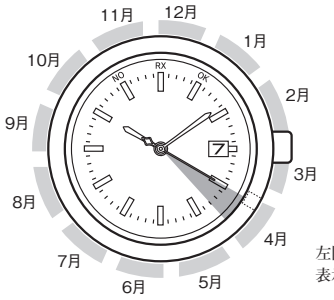


(5) りゅうずを回して時と日を合わせます。
　・日は時針と連動して替わります。
　・りゅうずを素早く連続回転させると、針が連続で動きます。針の動きを止めるには、りゅうずを左右どちらかに回します。
(6) (A) ボタンを押します。
　秒針が現在の月と年を指し、月と年を合わせる準備ができました。
　・次ページの「月の表示」「年の表示」をご覧ください。
(7) りゅうずを回して月とうるう年からの経過年を合わせます。
(8) 時報などに合わせて、りゅうずを通常位置にもどします。
　現在の時刻が表示されます。

●万年歴（パーペチュアルカレンダー）
この時計には、2100 年 2 月 28 日までのカレンダーが記憶されています。
一度日を合わせれば、月末ごとの日修正の必要はありません。

月の表示

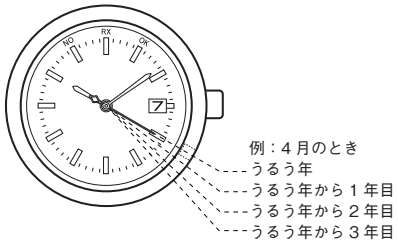
月は、秒針が位置している範囲で表示されます。



左図はうるう年の 4 月を表示しています。

うるう年からの経過年の表示

うるう年から何年経っているか（経過年）は、各月ごとの表示範囲内で、秒針が指す目盛りの位置で表示されます。



経過年	年		
0 年（うるう年）	2016	2020	2024
1 年	2017	2021	2025
2 年	2018	2022	2026
3 年	2019	2023	2027

5. 時差の確認と修正方法

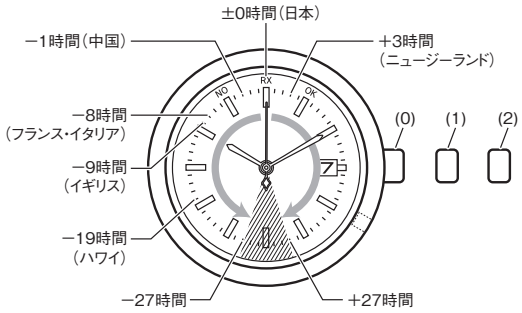
時差設定の仕方

海外の時差を設定することによって、現地の時刻を表示させることができます。

(1) りゅうずを 1 段引き位置にします。
　・秒針が、時計で設定されている時差を指します。
　0 秒位置：± 0 時間 / 3 秒位置：+3 時間
(2) (A) ボタンを押します。
　秒針が動き、時差を設定する準備ができました。
(3) りゅうずを回して、秒針を時差に合わせます。
　・秒針を 1 秒分動かすと、時針が 1 時間分動きます。
(4) りゅうずを通常位置にもどして、時差の確認・設定の操作を終了します。

日本時間を基準とした時差の見かた

秒針の 1 秒分が 1 時間の時差に相当します。
前後（±）27 時間の範囲で、1 時間ずつ変更することができます。



・日本時間に戻すには手順 3 で「± 0 時間」に秒針を合わせます。

6. 基準位置について

電波時計は基準位置をもとにして、受信した電波時刻を針で表します。外部からの強い衝撃や磁気などの環境におかれた場合、基準位置がずれる可能性があります。ずれた状態で使用されると、電波を受信しても時刻が正しく表示されません。電波受信しても時刻が正しくない場合は、基準位置を確認し、修正してください。

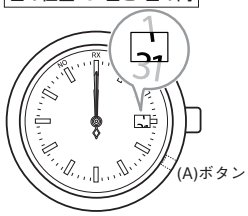
基準位置の確認と修正方法

(1) りゅうずを通常位置にもどします。
(2) (A) ボタンを押します。
　・秒針が動き、前回の受信結果を表示します。
(3) りゅうずを 2 段引きします。
　・前回の受信結果が表示されている間に行ってください。
　・各針が高速で動き始め、現在の基準位置が表示されます。

基準位置が正しい場合：手順 8 へ進みます。
基準位置がずれている場合：手順 4 へ進みます。

(4) (A) ボタンを押します。
　時針が動き、時針と日の位置を修正する準備ができました。
(5) りゅうずを回して下記の位置に合わせます。
　時針 : 0 時
　日 : 31 日と 1 日の間
　・時針と日は連動して動きます。
　・りゅうずをすばやく回転させると針が連続で動きます。針の動きを止めるにはりゅうずを左右のどちらかに回します。
(6) (A) ボタンを押します。
　分針と秒針が動き、分針と秒針の位置を修正する準備ができました。
(7) りゅうずを回して下記の位置に合わせる
　分針 : 0 分
　秒針 : 0 秒
(8) りゅうずを通常位置にし、(A) ボタンを押して終了します。
　現在の時刻が表示されます。ボタンを押さなくても約 2 分すると現在の時刻が表示されます。

正しい基準位置
針の位置：0時0分0秒
日の位置：31日と1日の間



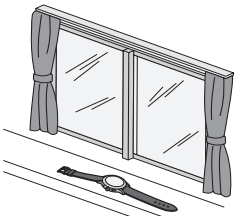
7. 光発電機能について

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。一度充電が完了すると、通常の使用状態（パワーセーブが作動しないとき）では、約 7 ケ月間、時刻を刻み続けます。なお、パワーセーブが作動しているときは、約 2.5 年間となります。
光の当たらない場所で保管される場合は、保管前に十分に充電されることをお勧めします。

〈この時計の上手な使い方〉

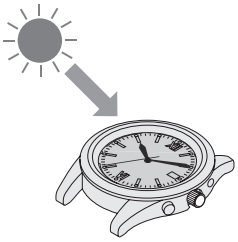
この時計を快適にご使用いただくためには、常に明るい場所での保管を心がけてください。

・充電は、文字板（ソーラーセル面）に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。



・時計を外したときも、時計の文字板面に太陽光が当たる、窓際等の明るい場所に置くように心掛けると、常に充電を続け時計は正しく動き続けます。

・日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当らないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
　月に一度は直射日光を当てて、充電することをお勧めします。



【注意】車のダッシュボード等の高温になる場所での充電は避けてください。

8. ソーラーパワーウオッチ充電時間の目安

連続して照射した場合の数値です。目安としてご利用ください。

環境	明るさ（lx､ルクス）	充電時間（約）		
		通常に動く状態を 1 日保つ	時計が停止してから通常に動き出すまで	時計が停止してから充電完了まで
屋外（晴天）	100,000	4 分	3 時間	25 時間
屋外（曇天）	10,000	15 分	5.5 時間	70 時間
30W 蛍光灯の 20cm下	3,000	45 分	14 時間	160 時間
屋内照明	500	4.5 時間	80 時間	-------

【注意】 充電完了後、一度も充電されないと持続時間は約 7 ケ月となります。パワーセーブが作動しているときは、約 2.5 年間、時刻を刻み続けます。ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心掛けてご使用ください。なお、月に一度は直射日光を当てて充電されることをお勧めします。

9. 充電警告機能

秒針が 1 秒運針から 2 秒運針に切り替わり、充電不足になったことをお知らせします。

2 秒運針をはじめてから約 5 日以上経過すると、充電不足で時計は停止します。

【注意】 2 秒運針しているときは定時受信、強制受信および手動での時刻修正はできません。

・「受信」「受信結果の確認」「時差修正」「基準位置の確認 / 修正」の最中に充電不足が発生すると、自動的に操作を中断し、操作前時刻に戻り 2 秒運針をはじめます。充電不足にならないように、常に充電を心掛けてください。

10. 過充電防止機能

ソーラーセルに光が当たり、二次電池が充電完了すると、それ以上充電されないように自動的に過充電防止機能が働きます。

どんなに充電しても二次電池や、時間精度、機能、性能等に影響をおよぼす心配はありません。

11. パワーセーブ機能

文字板に光が当たらない状態が 7 日以上継続した場合は、各針が 12 時位置で止まり、パワーセーブ（節電状態）になります。

文字板に光を当てるとパワーセーブが解除され、針が高速で回転して現在時刻にもどります。

12. 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、以下の項目をご確認ください。

	状況	対処方法
電波受信がうまくできない	受信可能地域内で受信が成功しない	りゅうずを通常位置にする
		電波を遮るものや、ノイズが発生するものを避けて、時計の 9 時位置を送信所に向けて受信する
		受信が終わるまで、時計を動かさない
	受信はできるが正しい時刻・日が表示されない	時差設定を確認する
		基準位置を確認・修正する
針の動きがおかしい	秒針が 2 秒毎に動く	充電する
	秒針が数分毎に回る	電波を受信中です

	状況	対処方法
針の動きがおかしい	すべての針が停止している	りゅうずを通常位置にする
		直射日光で 5 ～ 6 時間充電します。充電後、自動で電波の受信が始まります。（復活自動受信）
	時計をケースなどから出した途端に、針が高速で回りだす	パワーセーブが解除されています。現在の時刻が表示されるまでお待ちください。
時刻・日がおかしい	時刻や日が正しくない	時差設定を確認する
		基準位置を確認・修正する
		電波を受信して、時刻・日を合わせる
		手動で時刻・日を合わせる
	昼の 12 時頃に日が変わる	基準位置を確認・修正する
		電波を受信して、日を合わせる
		手動で時刻を 12 時間ずらす
その他	充電しても、すぐに止まる	直射日光で 5 ～ 6 時間充電します。それでも、変化がないときは、お買い上げ店へご相談ください。

13. オールリセット

各機能が正常に動作しているときは、オールリセットをしないでください。オールリセットを行った後は、必ずお使いになる前に「基準位置合わせ」をしてから、「時刻合わせ」を行ってください。この作業を行わないと、各機能を正常な状態で使用することができません。

(1) 基準位置確認状態にします。
(2) りゅうずを 2 段引き位置にします。
(3) (A) ボタンを 9 秒以上押します。
　・各針が少しだけ動きますが、ボタンを押し続けます。9 秒以上してからボタンを離すとオールリセットされ、再び各針が動きます。

(4) 基準位置を正しい位置にします。
(5) りゅうずを通常位置にします。
　・(A) ボタンを押して、通常状態にもどします。
　・秒針が 1 秒毎に動き始めます。
(6) 電波受信、または手操作で時刻を合わせて、完了します。

14. ソーラーパワーウオッチ取り扱い上の注意

時計は常に充電を心がけてお使いください

・日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
・時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

⚠ 注意　充電上の注意

- 充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので高温（約 60℃以上）での充電は避けてください。
  例）
  - 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい場所での充電
    ※白熱灯で充電するときは、必ず 50cm 以上離して時計が高温にならないように注意して充電してください。
  - 車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電

二次電池の交換について

- この時計に使われている二次電池は充電を繰り返し行えるため、従来の一次電池のように定期的な電池交換の必要はありません。
  ただし、長期間使用されますと、歯車の汚れ、油切れなどにより電流消費が大きくなり二次電池の容量が早くなくなります。定期的な分解掃除（有料）をお奨めします。

⚠ 警告　二次電池の取り扱いについて

- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
  やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。
  万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、ゴミ回収を行っている市町村の指示に従ってください。

⚠ 警告　指定の二次電池以外は使わないでください

- この時計に使われている二次電池以外の電池は、絶対に使用しないでください。
  他の種類の電池を組み込んでも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池など、他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

15. お取り扱いにあたって

⚠ 警告　防水性能について

- 時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。（1bar は約 1 気圧に相当します）
- WATER RESIST（ANT）×× bar は W.R. ×× bar と表示している場合があります。
- 非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
- 日常生活用防水時計（3 気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。

名称	表示 文字板または裏ぶた	仕様
日常生活用防水時計	WATER RESIST(ANT)	3 気圧防水
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST(ANT) 5 bar	5 気圧防水
	WATER RESIST(ANT) 10/20 bar	10 気圧防水、20 気圧防水

- 日常生活用強化防水時計（5 気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキンダイビング）やスキューバ潜水などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計（10/20 気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

使用例				
水がかかる程度の使用。（洗顔、雨など）	水仕事や一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
○	×	×	×	×
○	○	×	×	×
○	○	○	×	×

⚠ 注意　人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

⚠ 注意　使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店へ修理、点検を依頼してください。
- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
  - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
  - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
  - 入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど）が外れる危険があります。

⚠ 注意　携帯時の注意

＜バンドについて＞

- 皮革バンドやウレタンバンド（ゴムバンド）は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。（脱色、接着はがれ）また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンド（ゴムバンド）は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取り替えください。

- 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
  - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
  - バンドのピンが飛び出しているとき
- お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。バンドの調整は、お買い上げ店にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

＜温度について＞

- 極端な高温 / 低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

＜磁気について＞

- アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。
  磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

＜ショックについて＞

- 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

＜静電気について＞

- クオーツ時計に使われているＩＣは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜化学薬品・ガス・水銀について＞

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

＜保護シールについて＞

- 時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

⚠ 注意　時計は常に清潔に

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。
- 汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド（ゴムバンド）は水で汚れを洗い落としてください。
- 金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。
この塗料は太陽光や室内照明（白熱灯を除く）などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

16. 定期点検（有償）について

安全に永くご使用いただくために、2～3年に一度点検（有償）を行ってください。
防水時計の防水性能は、経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。

17. 製品仕様

1. 機種：H0F6
2. 型式：アナログソーラーパワーウオッチ
3. 時間精度：非受信時（電波を受信していないとき）
   平均月差± 15 秒（常温＋ 5℃～＋ 35℃携帯時）
4. 作動温度範囲：－ 10℃～＋ 60℃
5. 表示機能：●時、分、秒、日
6. 付加機能：●電波受信機能（定時受信、強制受信、復活自動受信）
   ●受信局自動選択機能（日本標準電波専用）
   ●受信中表示機能（RX）
   ●受信結果確認機能（OK, NO）
   ●手動時刻修正機能
   ●基準位置確認 / 修正機能（0 時 0 分 0 秒）
   ●光発電機能
   ●充電警告機能（2 秒運針）
   ●過充電防止機能

   ●充電残量表示
   ●衝撃検知機能
   ●JIS1 種耐磁性能
7. 持続時間：●充電完了後、充電しないで時計が停止するまで
   ：約 2.5 年（パワーセーブが作動しているとき）
   ：約 7 ヵ月（パワーセーブが作動していないとき）
   ●充電警告表示～充電不足で時計が停止するまで
   ：約 5 日
   （持続時間は電波受信回数等によって異なります。）
8. 使用電池：二次電池　（ボタン型リチウム電池）1 個

※製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。